

# お母さん自身の出生体重が小さいとお子さんが早産になりやすい？

Kudo et al. Maternal birth weight is an indicator of preterm delivery: the Japan environment and children's study. J Dev Orig Health Dis. 2024;15:e11. doi: [10.1017/S2040174424000126](https://doi.org/10.1017/S2040174424000126)



## 【はじめに】

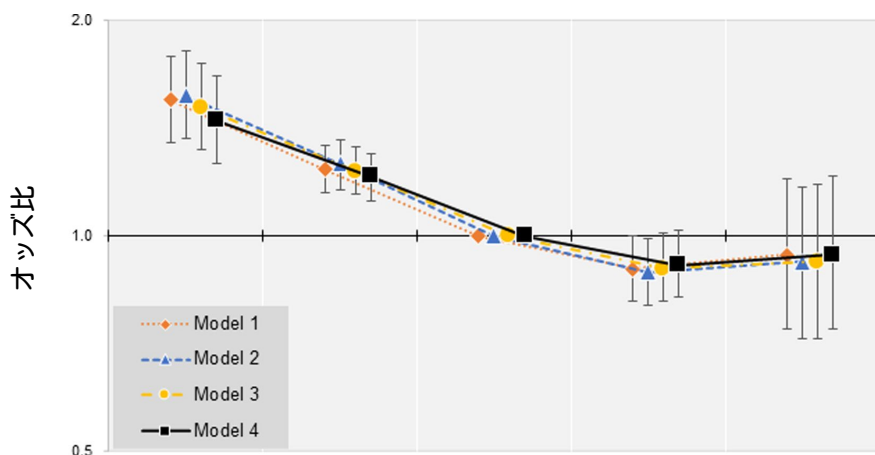
早産（妊娠37週未満の出産）の件数は世界的に増加しています。早産は健康に悪影響を及ぼすことから、そのリスク要因の特定が重要とされていますが、詳しい調査は行われていません。近年、母親の低出生体重が早産と関連していることが示唆されています。そこで本研究では、母親の低出生体重と早産の関連性を調査しました。

## 【調査項目】

78,366人の母親を解析対象としました。母親の出生体重を5つに分類し、早産（妊娠22～37週未満での出産）との関連性を統計学的に解析しました。

## 【結果】

親の出生体重と早産との関連性



早産	母体の出生体重					p-value
	<2,500 g	2,500-2,999 g	3,000-3,499 g	3,500-3,999 g	≥4,000 g	
Model 1	1.552 (1.352-1.783)	1.241 (1.149-1.340)	基準	0.901 (0.808-1.004)	0.938 (0.735-1.198)	<0.0001
Model 2	1.574 (1.370-1.808)	1.255 (1.162-1.355)	基準	0.891 (0.800-0.993)	0.918 (0.718-1.172)	<0.0001
Model 3	1.514 (1.316-1.742)	1.233 (1.140-1.332)	基準	0.903 (0.809-1.007)	0.922 (0.721-1.179)	<0.0001
Model 4	1.448 (1.256-1.669)	1.206 (1.115-1.304)	基準	0.913 (0.818-1.019)	0.941 (0.735-1.205)	<0.0001

表内の数字はオッズ比<sup>※1</sup> (95% CI<sup>※2</sup>)を示します。p-valueが0.05より小さい場合、統計学的に有意差があるとされます。

※1 オッズ比：ある事象の起こりやすさを2つの群で比べたもので、数字が大きいくほど事象が起こりやすいことを示します。この場合、事象は「早産」を指します。

※2 95% CI：「同じ調査を100回繰り返したら、95回は真の平均値が含まれるだろう」という範囲です。この区間が狭いほど推定の精度が高いとされます。

※3 Model1：粗い分析、Model2：地域センターが存在する地域と母体年齢を調整、Model3：Model2に加えて母親の婦人科疾患や甲状腺疾患の既往、社会的要因などを調整、Model4：Model3に加えて糖尿病の既往を調整

検証したどの解析モデルを用いても、母親の出生体重の低下は早産のリスクの上昇と関連していました。

## 【この調査でわかったこと】

母親の出生体重が低いほど早産が起こりやすいことがわかりました。よって、低出生体重の予防が将来の妊娠における早産の予防につながる可能性があります。また、妊婦の出生体重データは、早産の予測に重要な役割を果たすと考えられます。